

四肢麻痺や言語障害など重度障害者の意思伝達の支援法を学ぶ「難病コミュニケーション支援講座」が 2011 年 11 月 12、13 の両日、松山市道後町 2 丁目の県身体障害者福祉センターであった。作業療法士やヘルパーなど約 30 人が、文字盤やパソコン(PC) 入力補助ソフトウェアを使って実践した。

講座は東京の NPO 法人「ICT 救助隊」と NEC が協力し、2008 年度に首都圏でスタート。参加者が実際に支援ツールを体験できるのが売りで、昨年からは全国約 10 か所に広げ、四国では初めて開いた。

透明の板に五十音を書いた文字盤を使う意思伝達では、視線だけ動かせる患者役と、その意思を読み取る役に分かれて体験。ICT 救助隊が、文字ではなく患者の目にピントを合わせ、視線が合うよう板を動かすなどのコツを説明した。

聞き手が五十音を言い、患者がまばたきで合図する「口文字盤」も紹介。ヘルパーの両手が空く利点もあり、筋萎縮性側索硬化症(ALS)などで徐々に使う人が増えているという。

電子機器では、スイッチ 1 つでパソコンが操作で

講座で紹介されたコミュニケーション支援法など

文字盤に関するウェブサイト

JALSA コミュニケーション支援委員会
<http://www.jalsa-niigata.com/mojiban1.htm>
東京都立神経病院リハビリテーション科
<http://tmnh.jp/m2/08/index-1.html>

携帯用会話補助装置

トーキングエイド(ナムコ)
ボイスキャリーペチャラ(パシフィックサプライ)
レッツ・チャット(パナソニックヘルスケア)

パソコン入力補助ソフトウェア

伝の心(日立ケーイーシステムズ)
オペレートナビ(NEC)
Hearty Ladder(フリーソフト)

きるソフトウェア「伝の心」や「オペレートナビ」の特徴や操作のポイントを説明し、設定変更など基本的動作を伝授。「周囲が難しいと言うと当事者も『できるわけがない』と思う。一緒に覚えて、意思伝達の選択肢を確保して」と呼び掛けた。

(愛媛新聞・松山 2011 年 11 月 18 日)